

参考事例 簡易倒木調査報告

兵庫県の松原で外観上樹勢が良いクロマツが倒木！

状況 7月27日朝、駐車場担当者が倒木しているクロマツを発見、夜に倒れたらしいが、当夜は風、雨は無く好天であった。



葉色、枝ぶりも良く樹勢は良い



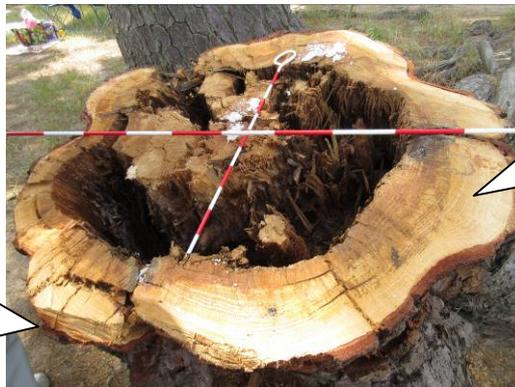
根元から折れている



あて材側、倒木方向に開口空洞

外観上は根元に開口空洞(約幅 40cm 程度のみ。
外観を見る範囲では倒木は予想出来にくい。
(空洞精密検査をすれば空洞範囲は解るが倒木判断は難しい状態)

折損部の状況

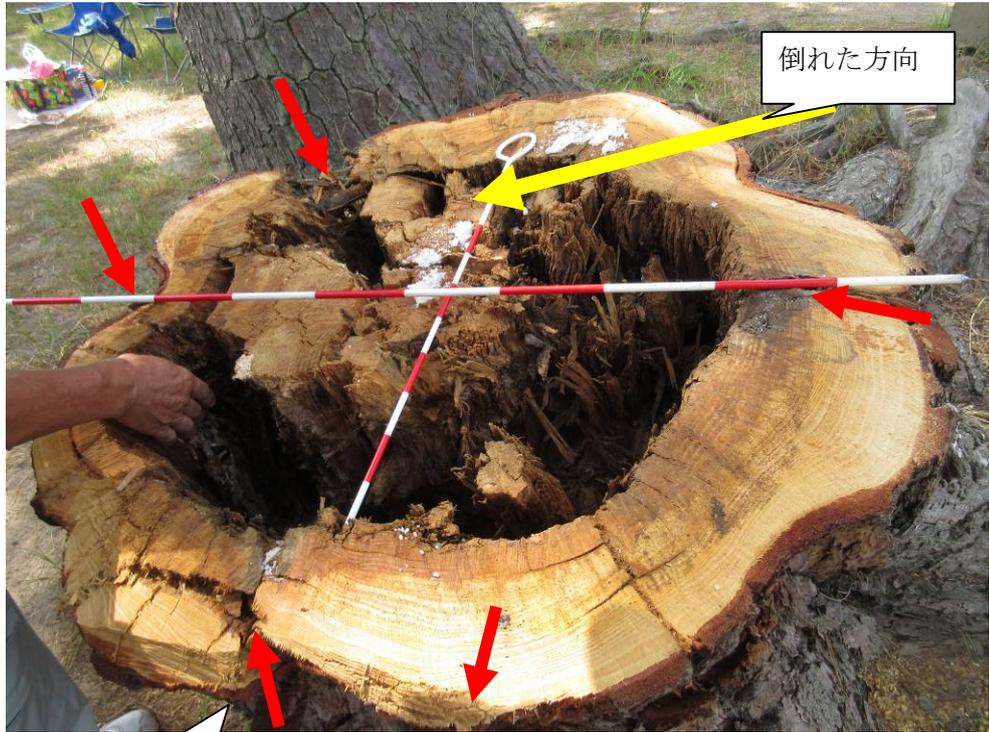


開口空洞、
倒木方向側

傾き側
圧縮あて材側

幹
直径約 90cm

腐朽空洞
直径約 50cm



開口空洞(地際)

← 樹幹注入による組織の変質部



内部に発生していたマツオウジ（ヒラタケ科の腐生菌）の子実体の一部、内部の腐朽はかなり前から始まっていたと推測される。

倒木原因

圧縮あて材側（傾き側）の開口空洞部から腐朽が進行、心材部を空洞化させた。更に、樹幹注入の弊害により、外周心材部も組織の一部が壊れ、円筒形の材が寸断されて強度を失ったと思われる。又、腐朽は引っ張り方向のルートカラー内部まで進行しており、これらの要因が重なり限界に達して倒木したと思われる。